



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1761秒です。

印刷



## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566001001	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(21世紀の哲学史)		
編集担当教員	菅原 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	菅原 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅原 潤		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	suga@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階 406室		
担当教員TEL	819-2730		
担当教員オフィスアワー	火曜日: 14:30~16:00		
授業のねらい	西洋の哲学史を基礎として日本の思想および、現代では欠かすことの出来ないフェミニズムについて考察する。		
授業方法(学習指導法)	講義形式		
授業到達目標	21世紀における哲学の役割を説明できること。		
授業内容	回	内容	
	1	4/11 イントロダクション	
	2	4/18 古代哲学	
	3	4/25 中世哲学	
	4	5/2 近世哲学	
	5	5/9 カント	
	6	5/16 ドイツ観念論	
	7	5/23 ニーチェ	
	8	5/30 解釈学	
	9	6/6 現象学	
	10	6/13 科学哲学	
	11	6/20 功利主義	
	12	6/27 政治哲学	
	13	7/4 日本哲学	
	14	7/11 フェミニズム	
	15	7/25 戦後思想	
16			
キーワード	西洋、日本、フェミニズム		
教科書・教材・参考書	菅原潤他編『21世紀の哲学』(昭和堂)		
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価(100%)		

受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

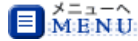


-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1795秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

参照URL

学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566001003	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(西洋哲学)		
編集担当教員	飯塚 知敬		
授業担当教員名(科目責任者)	飯塚 知敬		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	飯塚 知敬		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]429		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	教育学部 610室		
担当教員TEL	819-2313		
担当教員オフィスアワー	木曜日、3校時		
授業のねらい	西洋古代ギリシア、中世、近代・現代の哲学・倫理学の代表的な思想、あるいは歴史上の諸問題の考察を通して、西洋哲学・倫理学史、西洋文化理解への導入を目指す。		
授業方法(学習指導法)	毎回、資料を配布し講義形式で進める。哲学・倫理学研究においては講義内容を自分で考え、まとめる作業が大切なので、講義が3回終了後、まとめのための時間を設け、小テストを実施する。		
授業到達目標	西洋思想や歴史の大きな流れ、推移を理解し、自分の興味・関心に従って、視野を広げ理解を深めて行くための土台を形成する。		
授業内容	回	内容	
	1	4月15日 ガイダンス	
	2	ソクラテスの思想	
	3	プラトンの思想	
	4	アリストテレスの思想	
	5	まとめ、小テスト(1)	
	6	ヘレニズムの思想	
	7	アウグスティヌスの思想とキリスト教	
	8	スコラ哲学について	
	9	まとめ、小テスト(2)	
	10	デカルトの思想と近代	
	11	ジョン・ロックとイギリス経験論	
	12	カントの思想	
	13	まとめ、小テスト(3)	
	14	現代の思想と問題	
	15	現代の思想と問題	
16			

キーワード	西洋哲学・倫理学史、西洋思想と時代
教科書・教材・参考書	毎回資料を配布する。教科書は使用しない。参考書等は講義の中で指示する。
成績評価の方法・基準等	3回の小テストの合計点で評価する。
受講要件(履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	それぞれの思想について、要点を理解すること。思想と時代の大まかな流れを掴むこと。
学習・教育目標	思想と時代について、客観的な理解が得られるよう努めること。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	特になし。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金1																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20120566001002	科目番号	05660010																												
授業科目名	●人間と文化(倫理学)																														
編集担当教員	吉田 雅章																														
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 雅章																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 雅章																														
科目分類	人文・社会科学科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室	[全]102																														
対象学生(クラス等)																															
担当教員Eメールアドレス																															
担当教員研究室	環境科学部4階427室																														
担当教員TEL	819-2736																														
担当教員オフィスアワー	木曜日15:00~16:30																														
授業のねらい	倫理学とはどういう学問であるかを理解し、倫理的思考を身につけ、人間や自己をめぐる問題の考察の力を養うことをねらいとする。																														
授業方法(学習指導法)	講義形式																														
授業到達目標	取り上げられるテーマを理解することができ、自らもそうしたテーマについて思考を進め理解を深めることのできる基礎的能力を身につけ、人間や自己といった根本的・原理的な問題について考察することができる。																														
授業内容	<p>概要：倫理学は人間存在の学であるが、この講義では人間存在の意味を考えるために、まず人間存在を形成している習慣および習慣形成の根底に横たわる人柄の問題を取り上げて、その原理的な解明を行う。さらに、自己了解を形成する知と価値(自己論)をめぐる、ギリシア悲劇(ソポクレス『オイディプス王』)を検討することによってその意味を考察する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーションー倫理学とはどんな学問か、講義のねらい、内容の概要、講義の進め方などー</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>習慣の否定的評価と積極的評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>習慣の多様性</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>習慣と知識、習慣と意志</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>倫理学の誕生と人柄の意味</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行為と人柄</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「いのち」をめぐる二つの層</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>節度をめぐる人柄の4つの類型</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自己知とは何か</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>良心</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自己知と言葉</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>『オイディプス王』にみる自己知(1)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>『オイディプス王』にみる自己知(2)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーションー倫理学とはどんな学問か、講義のねらい、内容の概要、講義の進め方などー	2	習慣の否定的評価と積極的評価	3	習慣の多様性	4	習慣と知識、習慣と意志	5	倫理学の誕生と人柄の意味	6	行為と人柄	7	「いのち」をめぐる二つの層	8	節度をめぐる人柄の4つの類型	9	自己知とは何か	10	良心	11	自己知と言葉	12	『オイディプス王』にみる自己知(1)	13	『オイディプス王』にみる自己知(2)
回	内容																														
1	オリエンテーションー倫理学とはどんな学問か、講義のねらい、内容の概要、講義の進め方などー																														
2	習慣の否定的評価と積極的評価																														
3	習慣の多様性																														
4	習慣と知識、習慣と意志																														
5	倫理学の誕生と人柄の意味																														
6	行為と人柄																														
7	「いのち」をめぐる二つの層																														
8	節度をめぐる人柄の4つの類型																														
9	自己知とは何か																														
10	良心																														
11	自己知と言葉																														
12	『オイディプス王』にみる自己知(1)																														
13	『オイディプス王』にみる自己知(2)																														

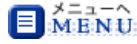
	14	『オイディプス王』にみる自己知(3)
	15	質疑応答
	16	考査
キーワード		
教科書・教材・参考書	市販のテキストは使用しない。講義に際して配布する「講義概要」に基づいて講義を進めるが、第3のテーマである「自己論」については、教材としてソポクレス著／藤沢令夫訳『オイディプス』(岩波文庫)を用いるので、あらかじめ熟読しておく必要がある。	
成績評価の方法・基準等	考査(80)と報告書(20)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	講義に先立ち、講義概要を配布するので、講義に臨む準備として講義概要に十分目を通しておくこと。	





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」

シラバスの詳細は以下となります。



戻る



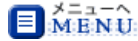
参照URL

学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566003002	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(工芸)		
編集担当教員	菅野 弘之		
授業担当教員名(科目責任者)	菅野 弘之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅野 弘之		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]124		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	kankan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 美術技術棟205		
担当教員TEL	819-2352		
担当教員オフィスアワー	月曜12時から12時30分 ただし、事前にメールで連絡し予約すること		
授業のねらい	感性への意識を高め、豊かな情操を涵養する。制作や発表(プレゼンテーション)等を行い、レポートを通して感じたことや論理等を作品と言葉を使って表現(まとめること)できる。		
授業方法(学習指導法)	感性を働かせたり感じ取ることについて、鑑賞や実際に竹を素材とした竹トンボを制作する。同時に「飛ぶ」という科学的な論理を理解した上で、自己表現としての形と「飛ぶ」論理の一致についてスケッチや試作をしながら考察していく。実際制作した作品を発表会(鑑賞会)やレポートを通して表現することにより、言葉と作品の相互関係を思考しながら、論理的な条件(飛ぶこと)を満たしながら、感性を表現することの表現能力を評価する。		
授業到達目標	①感じることへの意識を高める。②発表や制作、レポートを通して、道具(手工具)を使って作った工芸玩具について、制作過程において素材から感じたことや道具から感じたことについて説明できる。③他の人の作品や伝統工芸作品等を鑑賞し、感じ方や創意工夫の多様性を涵養する。		
授業内容	回	内容	
	1	授業説明 今まで習ってきた図画工作・美術の授業を振り返って	
	2	感じること 感性 について —鑑賞1—	
	3	感じること 感性 について —鑑賞2—	
	4	伝統工芸・玩具 —独楽 凧—等から工夫や論理を考える	
	5	飛ぶ 原理 と 感性	
	6	道具と素材から感じ取る 1	
	7	道具と素材から感じ取る 2	
	8	道具と素材から感じ取る 3	
	9	道具と素材から感じ取る 4	
	10	道具と素材から感じ取る 5	
	11	道具と素材から感じ取る 6	
	12	感じること 感性 について —鑑賞3—	

	13	発表会準備(発表練習) レポート作成
	14	発表会(プレゼンテーション)、
	15	レポートの修正、まとめ(レポート提出)
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	各自準備するものとして 切り出し(カッターナイフ禁止) サンドペーパー、新聞紙等 教材の竹については、授業時に説明	
成績評価の方法・基準等	レポート70点、授業への取り組み(発表)30点	
受講要件(履修条件)	履修可能人数は40名です(受講制限有)。詳しくは学務掲示を参照し手続きすること。全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
本科目の位置づけ	学生便覧参照のこと	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)	予習として「ブンブンこま」を制作(授業時に説明)し、感じたことや工夫したことについて記録しておくこと。レポート提出時に作品写真、コメントを提出	







タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566003001	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(作家における生と死)		
編集担当教員	山本 建雄		
授業担当教員名(科目責任者)	山本 建雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山本 建雄		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]403		
対象学生(クラス等)	1年、2年、3年、4年		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	教育学部 623		
担当教員TEL	819-2300		
担当教員オフィスアワー	水曜 II		
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で取り上げた個々の作家の生、創作と死生観の関わり について理解できる。</li> <li>・個々の作家の死生観と受講者のそれとを関係づけ、自己の死生 観の充実に役立てることができる。</li> <li>・受講者相互に、作家の死生観の理解や自己の死生観について意 交換ができる。</li> <li>・授業で取り上げなかった作家の生、創作と死生観との関わりに ついて理解を広げられる。</li> </ul>		
授業方法(学習指導法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作家の生、創作と死生観との関わりについて、文献を用い授業 者が講義する。</li> <li>・授業で取り上げた話題について、受講者が意見・感想を記述し たり、話し合ったりする。</li> <li>・受講者が、関心のある作家について、生、創作と死生観の関わ りを調べ、発表する。</li> </ul>		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の作家の生、創作と死生観との関わりについて、簡明に表 現できる。</li> <li>・作家達の死生観を踏まえつつ、受講者自身の死生観について文 章化や、話し合いができる。</li> <li>・自分の関心に従い調べた作家の死生観について、分かり易い紹 介ができる。</li> </ul>		
授業内容	回	内容	
	1	4月6日 本授業の目的、内容、方法等についての概略の説明。	
	2	4月13日 生と死を巡る今日的状況と受講者の問題意識の確認。	
	3	4月20日 正岡子規における場合。	
	4	4月27日 夏目漱石における場合。	
	5	5月11日 芥川龍之介における場合。	
	6	5月18日 森鷗外における場合。	
	7	5月25日 樋口一葉における場合。	
	8	6月1日 石川啄木における場合。	
		6月8日	

	9	宮沢賢治における場合。
	10	6月15日 斉藤茂吉における場合。
	11	6月22日 高村光太郎における場合。
	12	6月29日 金子みすずにおける場合。
	13	7月6日 遠藤周作における場合。
	14	7月13日 作家の死生観を踏まえた自己の死生観を巡る話し合い。
	15	7月20日 関心に従い調べてきた作家の死生観について記述。
	16	8月3日 これまでの授業の振り返りと今後の課題の確認。
キーワード	近現代の作家 死生観 創作 生き方 死	
教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材は、毎回授業者が用意する。</li> <li>・授業の中で取り上げた作家及び作品については、関連する新書、文庫を用い理解を広げる。</li> <li>・参考となるものについては、授業の中で随時紹介する。</li> </ul>	
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の理解度を評価する為に、小テストを 4, 5回実施する。</li> <li>・話し合いの折には、経過と成果について報告を各自に求める。</li> <li>・上記の評価を総合して、本授業の評価とし、6 %以上の達成度をもって合格とする。</li> </ul>	
受講要件(履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終わりの15回まで受講する意志があること。</li> <li>・授業終了までに、関係する図書を3冊以上読む意志があること。</li> </ul>	
本科目の位置づけ	文学と死生観の学習の両面にわたる。	
学習・教育目標	上記の「授業到達目標」参照。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566003003	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(詩と音楽の出会い～歌曲研究)		
編集担当教員	宮下 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	宮下 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮下 茂		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教]音1番		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	miyamo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 音楽棟2階 204号室		
担当教員TEL	819-2345		
担当教員オフィスアワー	Eメールでの質問又は研究室前質問受付時間掲示参照		
授業のねらい	本科目は、ドイツと日本の歌曲を取り上げ、詩と音楽、音楽描写等により、音楽と人、芸術と人との関わりを知り、詩と音楽、詩人と作曲家への理解を深めることを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	配布資料を基に授業内容の解説を行い、同時に詩や音楽の視聴を行い、それらの理解を深めるように展開する。		
授業到達目標	詩と音楽、詩人と作曲家への理解等、授業内容を理解し、授業内容に対する自身の考えを持ち、自身の考えを述べる事ができる。又は授業内容に対する疑問を述べる事ができる。		
授業内容	回	内容	
	1	季節の歌～春 I	
	2	季節の歌～春 II	
	3	歌曲の歴史 I ～導入～日本の歌曲(西洋音楽)の歴史①	
	4	歌曲の歴史 II ～日本の歌曲(西洋音楽)の歴史②	
	5	詩と音楽の出会い I ～ドイツ歌曲の歴史	
	6	歌、歌曲、オペラ、声楽…声楽ジャンルについて I	
	7	歌、歌曲、オペラ、声楽…声楽ジャンルについて II	
	8	詩と音楽の出会い II ～ドイツ語と音楽	
	9	詩と音楽の出会い III ～詩と音楽	
	10	文学的意味と音楽的表現 I ～言葉と旋律について	
	11	文学的意味と音楽的表現 II ～音楽的手法の意味について①	
	12	文学的意味と音楽的表現 III ～音楽的手法の意味について②	
	13	文学的意味と音楽的表現 IV ～音楽的手法の意味について③	
	14	ロマン派～「さすらい」について	
	15	音楽から見た「世界の言葉」と「学べる喜び」	
16	全授業の総括		
キーワード	歌曲 声楽 クラシック 音楽		

教科書・教材・参考書	授業計画に沿い、詩、訳詞等のプリント資料を配布する。音楽の視聴はCD、DVD、生演奏(歌とピアノ)を活用する。
成績評価の方法・基準等	毎回提出の授業レポートを評価する。(授業内容の理解・疑問、自身の考え等を提出。授業レポートの内容によっては、提出状況に関わらず評価を得ない場合がある。)
受講要件(履修条件)	教室の座席定員が36名のため、最大受講者数を36名とします。その為、定員を超えた場合は、NU-Webでの電子抽選を使用し、13日に全学教育掲示板に結果を公表します。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火3																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20120566005001	科目番号	05660050																														
授業科目名	●社会と歴史(テストの科学とその歴史)																																
編集担当教員	木村 拓也																																
授業担当教員名(科目責任者)	木村 拓也																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 拓也																																
科目分類	人文・社会科学科目																																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																														
教室	[全]403																																
対象学生(クラス等)	全学年																																
担当教員Eメールアドレス	kimura-t@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	アドミッションセンター(入試課)																																
担当教員TEL	095-819-2115																																
担当教員オフィサー	随時(メールでアポイントを必ず取る)																																
授業のねらい	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。																																
授業方法(学習指導法)	講義方式																																
授業到達目標	テストにおける哲学的・歴史的・社会的・心理学的・統計学的見方を修得する。テストデータを用いた項目分析が実施可能となる。																																
授業内容	<p>入学試験・就職試験・資格試験・昇格(昇任)試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、皆さんがいままで当たり前のように受けてきた「テスト」を、哲学・歴史学・社会学・心理学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」(test theory)と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行うことを目的とする。「テスト」を単に「害悪」と捉えるのではなく、「テストの結果が、個人の処遇や人生を大きく左右するものであるが故に、その実施にあたっては、細心の注意を払うべき類のものである」との認識に立って、よりよい「テスト」を実施していくための「基礎教養」の修得を目指す。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テストの基礎——暗黙のルールとその形式、テスト作成手順</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テストの社会学——学歴社会の理論、メリトラスニー論の概要</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テストの哲学——入学資格を社会哲学の立場から考える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>テストの心理学——社会心理学から見た面接試験の仕組み</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>テストの歴史学——江戸時代の試験制度</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>統計学の基礎(1)——偏差値</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>統計学の基礎(2)——相関係数</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>テストの統計学(1)——項目分析と統計的方法</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>テストの統計学(2)——信頼性</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>テストの統計学(3)——妥当性</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>テストの統計学(4)——項目反応理論</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>テスト現場の実際(1)——人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>テスト現場の実際(2)——データ分析の事例紹介(M-1グランプリの信頼性分析)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション	2	テストの基礎——暗黙のルールとその形式、テスト作成手順	3	テストの社会学——学歴社会の理論、メリトラスニー論の概要	4	テストの哲学——入学資格を社会哲学の立場から考える	5	テストの心理学——社会心理学から見た面接試験の仕組み	6	テストの歴史学——江戸時代の試験制度	7	統計学の基礎(1)——偏差値	8	統計学の基礎(2)——相関係数	9	テストの統計学(1)——項目分析と統計的方法	10	テストの統計学(2)——信頼性	11	テストの統計学(3)——妥当性	12	テストの統計学(4)——項目反応理論	13	テスト現場の実際(1)——人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方	14	テスト現場の実際(2)——データ分析の事例紹介(M-1グランプリの信頼性分析)
回	内容																																
1	オリエンテーション																																
2	テストの基礎——暗黙のルールとその形式、テスト作成手順																																
3	テストの社会学——学歴社会の理論、メリトラスニー論の概要																																
4	テストの哲学——入学資格を社会哲学の立場から考える																																
5	テストの心理学——社会心理学から見た面接試験の仕組み																																
6	テストの歴史学——江戸時代の試験制度																																
7	統計学の基礎(1)——偏差値																																
8	統計学の基礎(2)——相関係数																																
9	テストの統計学(1)——項目分析と統計的方法																																
10	テストの統計学(2)——信頼性																																
11	テストの統計学(3)——妥当性																																
12	テストの統計学(4)——項目反応理論																																
13	テスト現場の実際(1)——人事アセスメント(採用試験・昇任人事)の考え方																																
14	テスト現場の実際(2)——データ分析の事例紹介(M-1グランプリの信頼性分析)																																

	15   まとめ
	16
キーワード	テスト理論、大学入試、学力調査、心理テスト、人事アセスメント
教科書・教材・参考書	<p>基本的には資料を配布します。課題提出のために、課題図書を購入する必要がある。なお、文献一覧は初回に配布します。</p> <p>課題図書の例：日本テスト学会編『テストスタンダード』(金子書房、2007年)          日本テスト学会編『見直そう、テストを支える基本の技術と教育』(金子書房、2010年)          参考書：肥田野直『心理学研究法7 テスト1』(東京大学出版会、1972年)          池田 央『心理学研究法8 テスト2』(東京大学出版会、1973年)          荒井克弘・倉元直樹編『全国学力調査—日米比較』(金子書房、2008年)</p>
成績評価の方法・基準等	<p>中間に課す読書レポートと期末に課すデータ演習レポートの評点を合計して評価する。</p> <p>課題図書を購入する必要があるので注意すること。</p>
受講要件(履修条件)	統計学の基礎知識があることが望ましいが、初学者にも充分に配慮する。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	<a href="http://www.jartest.jp/">http://www.jartest.jp/</a>
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	金4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566005003	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(西洋古代史入門)		
編集担当教員	堀井 健一		
授業担当教員名(科目責任者)	堀井 健一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀井 健一		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)	2年生全学部		
担当教員Eメールアドレス	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階611番研究室		
担当教員TEL	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員オフィスアワー	木曜日3校時		
授業のねらい	<p>主題は「西洋古代の歴史概論」とし、教養としての古代ギリシアの社会についての知識を学びます。予習・ミニレポート・小テストの3つで歴史用語などの語彙を習得し、また読後レポートで考えて書く力を養います。ヨーロッパの古代社会の歴史と文化を知り、日本の社会・文化との差異を考えることを期待します。また、教育学部教員養成課程の学生にあっては中学社会・高校世界史の免許取得に備えて世界史の一部を学習することができます。</p>		
授業方法(学習指導法)	教科書、配布資料、パワーポイントによるプレゼンテーションを用いて歴史の流れ、要点を理解できるようにします。		
授業到達目標	西洋古代の歴史と文化の特徴を説明できるようにすること。ヨーロッパの古代の歴史・文化と日本の歴史・文化との差異を理解すること。		
授業内容	<p>主題は「西洋古代の歴史概論」とし、教養としての古代ギリシアの社会と文化について講義します。最後にこの古代ギリシアの文化が西洋文明の源流となった事情を説明して、ヨーロッパ文化の一側面を理解してもらいます。</p> <p>第1回 オリエンテーション、「歴史とは何か？」  第2回 古代ギリシア～ポリス世界  第3回 古代ギリシア～アテナイ国制史1  第4回 古代ギリシア～アテナイ国制史2  第5回 古代ギリシア～アテナイ国制史3  第6回 古代ギリシア～戦争と同盟1  第7回 古代ギリシア～戦争と同盟2  第8回 古代ギリシア～アレクサンドロスの遠征1  第9回 小テスト1、古代ギリシア～アレクサンドロスの遠征2  第10回 ギリシア文化の成立と展開1～哲学者について1  第11回 ギリシア文化の成立と展開1～哲学者について2  第12回 ギリシア文化の成立と展開3～美術について  第13回 ギリシア文化の成立と展開4～演劇について  第14回 小テスト2～中世ヨーロッパの12世紀ルネサンス  第15回 ヨーロッパの大学と西洋文明の源流としてのギリシア～総括の代わりに</p>		
キーワード			
教科書・教材・参考書	山本茂他『西洋の歴史〔古代・中世編〕』ミネルヴァ書房		
成績評価の方法・基準等	小テスト(20×3＝60点)、課題図書読後レポート(20点、主として理解度・文章構成力を見る)、調べレポート(10点)、歴史用語の予習内容の発表等(10点)		
受講要件(履修条件)	3分の2以上の出席を義務付ける。		

本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



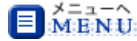
-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1794秒です。

[印刷](#)

シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」

シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	木5																						
開講期間																									
必修選択	選択	単位数	2.0																						
時間割コード	20120566005002	科目番号	05660050																						
授業科目名	●社会と歴史(日本民俗学概論)																								
編集担当教員	才津 祐美子																								
授業担当教員名(科目責任者)	才津 祐美子																								
授業担当教員名(オムニバス科目等)	才津 祐美子																								
科目分類	人文・社会科学科目																								
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																						
教室	[全]102																								
対象学生(クラス等)																									
担当教員Eメールアドレス																									
担当教員研究室	環422																								
担当教員TEL																									
担当教員オフィスアワー	木曜日 14:30-16:00																								
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本民俗学の成立過程や研究方法、研究対象について理解すること。</li> <li>・今まで何気なく接してきたであろう身の回りの民俗(文化)に気づき、目を向けるようになること。</li> </ul>																								
授業方法(学習指導法)	講義形式による。ただし、毎回授業の最後に授業内容に対する意見や感想、質問等を書いてもらう(担当教員が次回の講義の冒頭でそれについて回答する)ので、それを活用して、受講者にも授業に積極的に関わってもらいたい。																								
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本民俗学に関する基礎的な知識を身につける。</li> <li>・身近にある民俗(文化)を再認識するようになる。</li> </ul>																								
授業内容	<p>授業内容(概要)</p> <p>本講義では、民俗学の成立過程や研究方法、研究対象について概説する。特に研究対象については、視聴覚教材も使用しながら、具体的な事例を見ていくことにする。また、現在の状況は、民俗学が成立した際のそれとはかなり変化してきているため、そうした変化についても意識的に言及していく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>本講義の概説―「民俗学」って何だろう？</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>民俗学の歴史と先達者①</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>民俗学の歴史と先達者②</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>民俗学の研究方法</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>イエ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ムラと村落組織①</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ムラと村落組織②</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>年中行事</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>通過儀礼</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>カミとヒト</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	本講義の概説―「民俗学」って何だろう？	2	民俗学の歴史と先達者①	3	民俗学の歴史と先達者②	4	民俗学の研究方法	5	イエ	6	ムラと村落組織①	7	ムラと村落組織②	8	年中行事	9	通過儀礼	10	カミとヒト
回	内容																								
1	本講義の概説―「民俗学」って何だろう？																								
2	民俗学の歴史と先達者①																								
3	民俗学の歴史と先達者②																								
4	民俗学の研究方法																								
5	イエ																								
6	ムラと村落組織①																								
7	ムラと村落組織②																								
8	年中行事																								
9	通過儀礼																								
10	カミとヒト																								

	11	民俗と民俗学の現在
	12	民俗の文化財化
	13	民俗の変容・創造・伝播(1)
	14	民俗の変容・創造・伝播(2)
	15	民俗の変容・創造・伝播(3)
	16	講義全体の総括および期末レポートの提出
キーワード	民俗、文化	
教科書・教材・参考書	講義レジュメを配布する。また、参考文献に関しては、講義内で適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	授業内レポート(40%)および期末レポート(60%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566007001	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(現代社会と洗脳)		
編集担当教員	安部 俊二		
授業担当教員名(科目責任者)	安部 俊二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	安部 俊二		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]201		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	abe-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階617研究室		
担当教員TEL	095-819-2309		
担当教員オフィシアワー	水曜5校時		
授業のねらい	洗脳を宗教・政治・経済カルトなどに限定せず「密室的状況を利用しての(強制的)思考転換」としてとらえると、多くの現代の社会現象は「洗脳」的性格を帯びたものとして理解できる。洗脳の視角から現代社会を分析することによって新たな社会像を模索したい①。また「犯罪と人権」に関する基本的な考え方を学ぶ。具体的には、犯罪被害者(支援)、冤罪被害、犯罪報道、死刑、「裁判員裁判」について理解を深め、国民の「裁判参加」に対応できる基礎的な知識を習得したい②。		
授業方法(学習指導法)	ドキュメンタリー映像、講演、映画を<テキスト>に「現代社会と洗脳」「犯罪と人権」の問題を考える。		
授業到達目標	洗脳という新たな視角からの現代社会分析の理論的枠組みを修得すること①、犯罪と人権に関する基本的な知識・考え方を修得すること②が、本講義の到達目標である。		
授業内容	<p>講義は、まず「洗脳」の理論的概要を理解し、続いてドキュメンタリー映像・映画・講演をテキストに、現代社会におけるいくつかの社会現象の「洗脳」的側面を検討し、最後に「犯罪と人権」についての基本的事項を理解する3部構成である。</p> <p>なお、講義内容・展開は世界情勢・受講生の要望で変更・選択するが、以下の内容を予定している。</p> <p>0. 洗脳の基礎理論(第1・3回)</p> <p>1. 現代社会と洗脳(第2・3・4・5・6・7・8・9回)</p> <p>①アメリカ海兵隊新兵教育(第2・3回)</p> <p>②ギリシャ憲兵教育(第2回)</p> <p>③国家と狂気―旧ソ連特殊精神病院SPH・大津事件・虎ノ門事件―</p> <p>④「よど」号亡命者と日本人拉致―北朝鮮における洗脳の事例―</p> <p>⑤チリ軍事政権下の拷問と洗脳</p> <p>⑥現代日本における洗脳―宗教・経済・カルト、自己啓発セミナー、原発「安全」神話</p> <p>2. 犯罪と人権(第10・11・12・13・14・15回)</p> <p>①犯罪被害:武るり子講演「少年犯罪被害当事者の現状」</p> <p>②冤罪被害―大分・女子短大生殺害事件の事例研究―</p> <p>奥掛良一講演「雪冤」</p> <p>③犯罪報道―北川亮・長崎新聞記者・講演「犯罪報道の現場からの報告」</p> <p>④裁判員裁判・死刑制度再考</p> <p>定期試験(第16回)</p>		

キーワード	洗脳
教科書・教材・参考書	教科書: 櫻井義秀『霊と金:スピリチュアル・ビジネスの構造』(新潮社[新書]・2009年) 浜田寿美男『自白の心理学』(岩波新書[新書]・2001年) 参考書: リチャード・キャメリアン『洗脳の科学』(第3書館・1994年) 西田公昭『「信じこころ」の科学』(サイエンス社・1998年) G/ハスフォー『フルメタル・ジャケット』(角川文庫) 浜田寿美男『新版 自白の研究』(北大路書房) 大隈輝夫『人間を変えるー洗脳のメカニズムー』(筑摩書房) Hugh O'Shaughnessy, Pinochet: the politics of torture, New York University Press, 2000. R・リフトン『思想改造の論理』(誠心書房)
成績評価の方法・基準等	定期試験の結果(5割)、毎回鑑賞する映像作品の分析レポート(A4判1枚)(5割)を総合的に判断する。なお、レポートは「作品の分析」であって「感想」を求めるものではない。
受講要件(履修条件)	学習効果を考えて履修者の上限を設けることがある。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	紹介する文献・配布文献は必ず読んで理解すること



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	火4																										
開講期間																													
必修選択	選択	単位数	2.0																										
時間割コード	20120566009001	科目番号	05660090																										
授業科目名	●経済と経営(経済思想史と現代)																												
編集担当教員	姫野 順一																												
授業担当教員名(科目責任者)	姫野 順一																												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	姫野 順一																												
科目分類	人文・社会科学科目																												
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目																										
教室	[全]321																												
対象学生(クラス等)	全学部																												
担当教員Eメールアドレス	himeno@nagasaki-u.ac.jp																												
担当教員研究室	環420																												
担当教員TEL	819-2722																												
担当教員オフィスアワー	月曜日15:00~17:00																												
授業のねらい	この講義では、前半で18世紀までの経済学の生成(重商主義・重商主義)および「経済学の生誕」(アダム・スミス)と19世紀における経済学の確立期(リカードウ、マルサス、J.S.ミル)において人間がどのように扱われたかを学習する。次に後半ではイギリスをモデルにして20世紀の経済学における人間の取り扱いと福祉について学習考察する。																												
授業方法(学習指導法)	1. 講義を中心とし、経済学の古典における人間の取り上げ方を講述する。 2. 適宜最近の参考文献を紹介し、学習意欲を高める。 3. 時々講義の概要とコメントの提出を課す。																												
授業到達目標	1. 人間と経済の関係について基礎的な知識を身につける。 2. 論理的な思考の習慣を習得する。 3. 人間福祉についての基本的な概念に習熟する。																												
授業内容	<p>2/9第16回 試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10/6第1回 経済学とは</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10/13第2回 経済学の生成と人間(共同体と商品経済社会)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10/20第3回 経済科学の生成(重農学派)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10/27第4回 経済政策の登場(重商主義)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11/10第5回 経済学の生誕と人間性格・道徳哲学と経済学</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11/17第6回 自由貿易と帝国</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11/24第7回 自由競争のシステムと保護主義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>12/1第8回 歴史学派と限界効用学派</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>12/8第9回 社会問題と経済学</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12/15第10回 経済恐慌と経済学</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12/22第11回 新自由主義の経済学</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1/12第12回 社会主義とは</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10/6第1回 経済学とは	2	10/13第2回 経済学の生成と人間(共同体と商品経済社会)	3	10/20第3回 経済科学の生成(重農学派)	4	10/27第4回 経済政策の登場(重商主義)	5	11/10第5回 経済学の生誕と人間性格・道徳哲学と経済学	6	11/17第6回 自由貿易と帝国	7	11/24第7回 自由競争のシステムと保護主義	8	12/1第8回 歴史学派と限界効用学派	9	12/8第9回 社会問題と経済学	10	12/15第10回 経済恐慌と経済学	11	12/22第11回 新自由主義の経済学	12	1/12第12回 社会主義とは
回	内容																												
1	10/6第1回 経済学とは																												
2	10/13第2回 経済学の生成と人間(共同体と商品経済社会)																												
3	10/20第3回 経済科学の生成(重農学派)																												
4	10/27第4回 経済政策の登場(重商主義)																												
5	11/10第5回 経済学の生誕と人間性格・道徳哲学と経済学																												
6	11/17第6回 自由貿易と帝国																												
7	11/24第7回 自由競争のシステムと保護主義																												
8	12/1第8回 歴史学派と限界効用学派																												
9	12/8第9回 社会問題と経済学																												
10	12/15第10回 経済恐慌と経済学																												
11	12/22第11回 新自由主義の経済学																												
12	1/12第12回 社会主義とは																												

	13	1/19第13回 進化論と経済学
	14	1/26第14回 ケインズ主義と人間
	15	2/2第15回 センのケイバリティの経済学
	16	
キーワード	経済学、人間、歴史、思想、政策	
教科書・教材・参考書	アダム・スミス『道徳感情論』と『国富論』の世界 (中公新書): 堂目 卓生 J.A.ホブスン人間福祉の経済学―新自由主義の展開(昭和堂): 姫野順一	
成績評価の方法・基準等	講義の概要とコメントを書く小レポート(30%)および定期試験(70%)で評価する	
受講要件(履修条件)	特になし	
本科目の位置づけ	経済学と人間との関わりを理解することにより、経済学と法学、社会学、哲学との関連が理解される。	
学習・教育目標	自分で本を読む訓練を身につけさせる 問題意識を持つことを動機づける	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



Semester	the former term	Day・Period	TUE3
Class period			
Required/Elective class	select	Number of credits	2.0
Time schedule code	20120566009002	Subject code	05660090
Subject	Economics and Business		
Professor in charge of putting together the course syllabus	Umali Celia Lopez		
Professor in charge of the subject	Umali Celia Lopez		
Professor(s)	Umali Celia Lopez		
Class type			
Year	2nd,3rd,4th	Class form	Lecture
Class room			
Object Student	1st,2nd,3rd,4th year		
E-mail address	umari@nagasaki-u.ac.jp		
Laboratory	Faculty of Economics, Main Bldg. Rm.509		
Tel	095-820-6327		
Office hours	11-12pm Friday		
Aim	Food security is a major concern in many countries. This lecture will provide the students with a better understanding agribusiness and its economic implications.		
Method	The concept of agribusiness and its economic implications will be presented through lectures and understanding of the theories will be deepened using case examples.		
Goal	At the end of the course the students will be able to: 1) have a better understanding of agribusiness,and 2) demonstrate better knowledge of the important role of agribusiness in the economy.		
Class outline/Con	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation/Introduction</li> <li>2. Concept and importance of agribusiness economics</li> <li>3. Characteristics of agribusiness</li> <li>4. Agribusiness commodity systems concept</li> <li>5. Determinants of competitiveness in agribusiness</li> <li>6. Macro - Micro linkages and agribusiness</li> <li>7. Same</li> <li>8. Economics and politics of international trade</li> <li>9. Same</li> <li>10. Instruments of trade</li> <li>11. Technological innovation and agriculture</li> <li>12. Sustainable and environmentally friendly agriculture</li> <li>13. ICT and agribusiness</li> <li>14. Marketing factor in agribusiness</li> <li>15. Same</li> </ol>		
Key word	agribusiness, economics, international trade, innovation, sustainability		
Textbook,Teaching material,and Reference book	World Bank, World Development Report, Agriculture for Development, 2008 Austin, James. Agroindustrial project analysis, John Hopkins Univ. Press. 2002 Cramer, Gail, et al, Agricultural Economics and Agribusiness,John Wiley & Sons, 2001.		
Evaluation	Quizzes 50% Final Exam 50%		

Requirements	
Location	
Study and educational target of this subject	
Remarks(URL)	
Remarks(Preparation study etc.)	Good knowledge of English is very important.



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

[印刷](#)

シラバス参照

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120566011001	科目番号	05660110
授業科目名	●日本国憲法(人権の歴史と日本国憲法)		
編集担当教員	吉田 省三		
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 省三		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 省三		
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]201		
対象学生(クラス等)	制限しない		
担当教員Eメールアドレス	yosida-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館512		
担当教員TEL	095-820-6397		
担当教員オフィスアワー	火曜、授業終了後		
授業のねらい	日本国憲法97条は、人権を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」とあると同時に「過去幾多の試練に堪へてきたという。日本国憲法は、憲法「改正」という現在の「試練」に堪えられるか、憲法を人類の歴史のなかにおいてとらえ直してみよう。		
授業方法(学習指導法)	教科書を使用し、人権の思想、人権のためのたたかい、日本国憲法の主要な事件、判例を解説する。		
授業到達目標	世界および日本の憲法の歴史、憲法の基本的概念、主要な憲法判例を理解する。個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期する。		
授業内容	憲法の過去—立憲主義の歴史、現在—人権の実現の状況、未来—改憲問題について講義します。		
	回	内容	
	1	4月10日 憲法の過去：立憲主義、憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」	
	2	4月17日 ブルジョア革命と人権	
	3	4月24日 人権宣言—合州国「独立宣言」・フランス革命「人権宣言」	
	4	5月1日 日本の人権思想	
	5	5月8日 日本国憲法とその歴史(1)	
	6	5月22日 日本国憲法とその歴史(2)	
	7	5月29日 憲法のキーワード：権利と義務(1)	
	8	6月 5日 憲法のキーワード：権利と義務(2)	
	9	6月12日 憲法のキーワード：民主主義と権利保障(1)	
	10	6月19日 憲法のキーワード：民主主義と権利保障(2)	
	11	6月26日 憲法のキーワード：民主主義と権利保障(3)	
	12	7月3日 憲法のキーワード：民主主義と権利保障(4)	
13	7月10日 憲法と国際社会		

	14	7月17日 憲法の未来: 憲法「改正」問題(1)
	15	7月24日 憲法の未来: 憲法「改正」問題(2)
	16	7月31日 定期試験
キーワード	立憲主義、民主主義、共和主義	
教科書・教材・参考書	<p>(◆は必携です)</p> <p>◆教科書 芦部信喜『憲法第五版』岩波書店</p> <p>◆教材 「日本国憲法」「大日本帝国憲法」等を収録する法令集</p> <p>●参考書 トマス・ホブズ『リヴァイアサン』岩波文庫 『世界人権宣言集』岩波文庫 浜林正夫『イギリス民主主義思想史』新日本出版社、1973年。 浜林正夫『人権の歴史と日本国憲法』学習の友社、2005年。 民主主義科学者協会法律部会編『改憲・改革と法－自由・平等・民主主義が支える国家・社会をめざして』法律時報臨時増刊・日本評論社、2009年。 渡辺治『憲法9条と25条・その力と可能性』かもがわ出版、2009年。 樋口陽一『いま、憲法は「時代遅れ」か』平凡社、2011年。</p>	
成績評価の方法・基準等	定期試験による(100%)	
受講要件(履修条件)	無し。	
本科目の位置づけ	市民の形成。	
学習・教育目標	授業の到達目標に同じ。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1797秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2012年度シラバス**」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_旧カリ科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	前期	曜日・校時	木4																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20120566011002	科目番号	05660110																														
授業科目名	●日本国憲法(人権分野を中心に)																																
編集担当教員	小林 寛																																
授業担当教員名(科目責任者)	小林 寛																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小林 寛																																
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目																																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																														
教室	[全]201																																
対象学生(クラス等)	全学部																																
担当教員Eメールアドレス	hkoba@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	428																																
担当教員TEL	095-819-2725																																
担当教員オフィスアワー	木曜日午後3時～5時																																
授業のねらい	日本国憲法において保障された個別の基本的人権を取り上げつつ、日本国憲法の基本原理の一つである基本的人権の尊重の理念を理解できることをねらいとする。																																
授業方法(学習指導法)	通常の講義形式により授業を行う。適宜発問するなどして理解を確認する。																																
授業到達目標	基本的人権の尊重の理念及び個別の基本的人権の内容や限界等について理解し、これを自らの言葉で説明できるようになることを到達目標とする。																																
授業内容	<p>本授業では、日本国憲法において保障されている基本的人権の原理・内容・限界等について講義する。本授業では、基本的人権を中心的テーマとするが、それに限定せず、立憲主義・憲法史・統治機構等についても可能な範囲で言及する予定である。また、過去の具体的事件を取り上げつつ講義を行う予定である。ただし、以下に掲げるのはおおよその予定であり、解説の追加等により、適宜変更される場合もある。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション・立憲主義の概説</td></tr> <tr><td>2</td><td>憲法史の概説</td></tr> <tr><td>3</td><td>日本国憲法の基本原理</td></tr> <tr><td>4</td><td>基本的人権の原理と限界</td></tr> <tr><td>5</td><td>包括的基本権</td></tr> <tr><td>6</td><td>法の下での平等</td></tr> <tr><td>7</td><td>精神的自由権①</td></tr> <tr><td>8</td><td>精神的自由権②</td></tr> <tr><td>9</td><td>精神的自由権③</td></tr> <tr><td>10</td><td>経済的自由権①</td></tr> <tr><td>11</td><td>経済的自由権②</td></tr> <tr><td>12</td><td>人身の自由・国務請求権・参政権</td></tr> <tr><td>13</td><td>社会権</td></tr> <tr><td>14</td><td>統治機構の概説①</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	イントロダクション・立憲主義の概説	2	憲法史の概説	3	日本国憲法の基本原理	4	基本的人権の原理と限界	5	包括的基本権	6	法の下での平等	7	精神的自由権①	8	精神的自由権②	9	精神的自由権③	10	経済的自由権①	11	経済的自由権②	12	人身の自由・国務請求権・参政権	13	社会権	14	統治機構の概説①
回	内容																																
1	イントロダクション・立憲主義の概説																																
2	憲法史の概説																																
3	日本国憲法の基本原理																																
4	基本的人権の原理と限界																																
5	包括的基本権																																
6	法の下での平等																																
7	精神的自由権①																																
8	精神的自由権②																																
9	精神的自由権③																																
10	経済的自由権①																																
11	経済的自由権②																																
12	人身の自由・国務請求権・参政権																																
13	社会権																																
14	統治機構の概説①																																

	15 統治機構の概説②
	16 定期試験
キーワード	基本的人権の尊重
教科書・教材・参考書	教科書: 追って指定する。 参考書: 芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法第五版』(岩波書店、2011年)
成績評価の方法・基準等	定期試験(90%) 授業への積極的な取り組み状況(10%)
受講要件(履修条件)	憲法などの法律科目に関心のある学生の受講を期待しています。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.